

第〇〇回 〇〇小学校卒業式 祝辞

卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。

また、とても立派になったお子さんを育ててこられた保護者の皆様にも心よりお祝いを申し上げます。

校長先生を始め、先生方には毎日の学校生活で子どもたちを親身になってご指導くださり、成長を共に見守っていただきました。

また、常々、暖かく見守ってくださった地域の皆さまにも、PTA会員を代表致しまして、心より感謝申し上げます。

本当にありがとうございました。

さて、本日、皆さんは〇〇小学校を卒業し、四月からは中学校での新しい生活が始まろうとしています。

私からは皆さんに徳川家康の遺訓を贈りたいと思います。

「人の一生は重荷を負うて遠き道を行くがごとし、急ぐべからず。不自由を常と思えば不足なし。心に望みおこらば困窮したる時を思い出すべし。堪忍は無事長久のいしずえ。怒りは敵と思へ。勝つことばかり知りて負くることを知らざれば害、其の身に到る。己を責めて人を責むるな。及ばざるは過ぎたるにまされり」という言葉です。

今の言葉にすると、

「生きていくということは常に責任がつきまとうもので、大変なことのほうが多いものである。

慌てたり急いだりせず弛まぬ努力を続けなくてはならない。自由にならないことが当たり前だと思えば苦労も苦労だとは思わなくても良い。また、怒りにはひとつも良いことがない。何事もカツとならずに一呼吸おいて行動すればよい。勝つことばかりを思えば、大きく負けてしまう。人の過ちばかりを責めてはいけない、自分の責任も認識しなさい。

そして何事もやり過ぎは良くない、ほどほどが良いというのが全体の意味です。徳川家康らしい、辛抱を一番に考えた言葉です。

人の和を尊ぶ考え方は四百年過ぎた今でも私たちの生活の指針として十分に役に立ちます。

一人で生きていくのであれば言葉は必要ありません。しかし、言葉を使い、みんなとの会話によってお互いの気持ち解れば、何倍もの喜びを分かち合えることができる信じています。

ですから皆さんにはこれからもたくさんの方たちとお互いを尊重しあい、助け合いながら目標を達成して欲しいと願っています。皆さんの希望に満ちた前途を心より祝福します。

令和△△年△月△△日

高松市立〇〇〇小学校 PTA会長 〇〇〇〇